

園名

荒川区立尾久第二幼稚園

テーマ

自然



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

テーマ設定の理由

自園は、生き物や草花、畑など身近な自然に触れる機会が多く、自然への親しみや関心をもつ幼児が多く見られているため「自然」をテーマ設定する。日常的な自然遊びがより探求的な遊びとなるよう、また自然事象を含む自然環境の工夫、デジタル機器等の活用の充実を図る。

活動スケジュール

令和8年5月～6月

- ①アゲハチョウの幼虫がサナギに変身！
- ②チョウになったよ！
- ③チョウにならないサナギ

準備した素材や道具、環境の設定

- 幼虫の変化や、サナギやチョウへの生長への関心を高められるよう、写真図鑑を用意した。
- 幼児が自分たちで育てている幼虫がサナギになる瞬間を見られるように、タブレットやモニターを用意した。

・図鑑 ・タブレット ・モニター

活動事例① ～アゲハチョウの幼虫がサナギに変身！～

活動内容

学級で育てているアゲハチョウの様子を日々観察している。幼虫がサナギになる瞬間を録画して学級で鑑賞した。

活動の様子

幼児の姿・声・幼児同士や幼児と教師の関わり

園庭で見付け、学級で育てていたアゲハチョウの幼虫。ある日、幼虫が動かなくなり、「サナギになるのではないか？」と考えた教師が、「もうすぐサナギになるかもしれないよ」と学級の幼児に共有し、タブレットを設置して録画を始めた。

保育時間中、幼児は幼虫を見ながら「まだまだ変身しないね」と話していた。保育時間中はサナギにならず、その日の夜にサナギになった。

次の日、撮った動画を学級で鑑賞した。じっとしていた幼虫が動き始めると「動いてる！」「ネバネバのが出てきてる！」と気付いたことを話しながら見ていた。また、サナギになる瞬間を見て「なんで変身したの！？」「皮を脱いだんじゃない？」と驚いていた。



活動事例②

～チョウになったよ！～

活動内容

学級で飼育・観察していたサナギが、羽化した。チョウを観察したり、今後チョウをどうするか学級で話し合ったりした。

活動の様子

幼児の姿・声・幼児同士や幼児と教師の関わり

朝、登園すると、アゲハチョウが羽化していることに気付いた幼児が「チョウチョになってる！」と喜びを友達や教師と共有する。嬉しそうに何度も見に行ったり、じっと観察したりする幼児もいた。

学級の集まりで、教師がチョウになった喜びに共感し、「このチョウチョ、どうしようか？」と投げかけると「ずっと飼う」「でも狭くてかわいそうだよ」など、幼児から思いが出てくる。様々な意見を受け止め、チョウが生きるためには食べ物（花の蜜）が必要であることを話すと「じゃあお外に出してあげる！」と、園庭に放すことになった。

園庭で放す時には「バイバイ！」「ごはんいっぱい食べてね～！」と、チョウに声を掛けていた。また、アゲハチョウが園庭に飛んでいると「あ！僕たちのアゲハチョウがまた遊びにきた！」と喜んでいた。



活動事例③

～チョウにならないサナギ～

活動内容

長い期間、チョウにならないサナギがいた。どうしてチョウにならないのか、このサナギをどうするかを学級で話す機会を設けた。

活動の様子

幼児の姿・声・幼児同士や幼児と教師の関わり

教師が「このサナギずっとチョウチョにならないんだよね。色も変わってきたよ」と話すと、幼児が「黒くなってる」「ごはんを食べていないからかな」と話す。教師が「調べたら、チョウチョになれなくて死んじゃうサナギもいるんだって。殻が硬くなって出られないこととか、虫さんがいじわるして死んじゃうこととかがあるみたい」と話すと、幼児が「かわいそう…」「死んじゃったのかな」「アゲハチョウになれないのかなあ」と話す。触って「カラカラに枯れてるみたい」と話す幼児もいる。教師が「死んじゃって残念だったね。このサナギはどうする？」と投げかけると、A児が「土に埋めてあげれば？」と話したため、教師が「土に埋めて、また元気に来てねってする？」と話すと、他の幼児も「いいね!」と同意し、みんなで園庭の一角にサナギを埋めることにした。



振り返りによって得た教師の気付き

アゲハチョウの幼虫が羽化してチョウになるところまでの過程を幼児と一緒に観察する中で、幼児の中で様々な気づきや興味関心の広がりが見られた。幼虫の時には、葉を食べる姿や幼虫の動きに注目し、餌となる柑橘系の葉を園庭で教師と一緒に取って世話するようになった。幼虫がケースの中で動かなくなり、そろそろサナギになるかもしれないという話を幼児とすると、「楽しみ」と話していた。サナギになる瞬間を動画撮影して翌日学級で共有すると、なぜサナギになるのかという疑問や、ネバネバした糸をしているという発見等が幼児の中から出てきた。動画を見た後には、今まで関心があまりなかった幼児も飼育ケースを見に来るようになり、学級全体で羽化を楽しみにする姿が増えた。教師と一緒に図鑑や絵本を見て、1週間ほどで羽化することを知り、楽しみにする姿も見られた。羽化の瞬間は動画に収めることができなかったが、幼児は登園後にチョウになっていることに気がついて喜んでいた。残っていたサナギの殻を見て、「ここから出てきたの？」と驚く姿も見られた。

こうしたアゲハチョウ自体への興味関心の高まりの他に、無事に羽化したチョウや死んでしまったサナギをどうするのか、という学級での話し合いでは、命について考える時間やチョウを思いやる心の育ちが感じられる時間となった。

また、アゲハチョウを外に放した後、園庭でアゲハチョウを見かけるたびに「また遊びに来てくれた」「みんなのことが大好きなのかな?」「いっぱいご飯食べてね」など声をかける幼児の姿が見られた。アゲハチョウとの出会いから別れまでの経験を通して、生き物への親しみを深めることができたように感じる。